

山口県のドングリ

(11) 小野田市、山陽町、美祢市の神社林のドングリ

阿部弘和・小路 聡

山口大学教育学部生物学研究室

Fagaceae in Yamaguchi Prefecture

(11) Fagaceae in the compound of shrine in Onoda-shi, Sanyo-cho, and Mine-shi

Hirokazu ABE and Satoshi SHOJI

(Biological Institute, Faculty of Education, Yamaguchi University)

(Received September 21, 2001)

Summary

The species of Fagaceae in the compound of 27 shrines in Onoda-shi, 22 shrines in Sanyo-cho, and 51 shrines in Mine-shi was investigated.

Fifteen species belonging to four genera, 10 broad-leaf evergreen species and 5 broad-leaf deciduous species, were identified: *Quercus acuta* (in 4 shrines), *Q. glauca* (in 59), *Q. myrsinaefolia* (in 18), *Q. salicina* (in 3), *Q. sessilifolia* (in 6), *Q. gilva* (in 1), *Lithocarpus edulis* (in 2), *L. glabr* (in 7), *Castanopsis cuspidata* (in 35), *C. cuspidata. sieboldii* (in 3), *Q. variabilis* (in 2), *Q. acutissima* (in 8), *Q. serrata* (in 31), *Q. aliena* (in 1), and *Castanea crenata* (in 19).

In this area, *Q. glauca* is a dominant and *Q. serrata* and *C. cuspidata* are common. The number of species in a shrine was 2.0 on the average. However, there are some differences in the kind of species and frequency among districts. Mine-shi, the mountainside, is most abundant in the kind and most in the number of species a shrine. Those values in Mine-shi were about twice as much as those in the coastal district, Onoda-shi, respectively. The habitat of *L. glabr* observed in 7 shrines ranged north and south in Mine-shi. *L. glabr* is a rare in Yamaguchi and has been common only in the eastern area in Yamaguchi Prefecture.

序 論

我々は1986年以来、山口県のドングリの種と分布を山口市・小郡町（花岡・阿部、1986）、阿武郡・萩市（阿部・森田、1989）、防府市・徳地町・鹿野町（阿部・郡司、1991）、宇部市・楠町・美東町（阿部・白井、1994）、秋芳町・三隅町・長門市（阿部・白井、1995）、由宇町・岩国市・和木町（西村・阿部、1996）、大島郡（阿部・岡原、1997）、熊毛郡・柳井市・大島町（阿部・岡原、1998）、下松市・熊毛町・光市（阿部・原田、1999）、徳山市・新南陽市（阿部・原田、2000）の合計775の神社林で調査してきた。

これら一連の研究を通じて、4属16種のドングリを観察した。そして、これら16種のなかには、アラカシやコナラのように普遍的に広く分布する種とアカガシやイチイガシのように希な種があることを明らかにした。また、ふつうに見られる種であっても、各々の出現頻度は地域毎に異なっている事も分かった。例えば内陸部でシラカシが多いのに対して、海岸部では2種のシイのうち、スタジイが多い。あるいは、シリブカガシとアベマキは山口県の東部に偏在している事も分かった。一般に、ドングリは地域や高度によって分布が異なり、各地域の植生を代表し、自然環境のよい指標となる樹木であるが、山口県という狭い範囲においても、ドングリの種類と分布には明らかに地域差が認められた。この研究の最終目的は、ドングリという樹木を通して、山口県の自然環境を明らかにすることであるが、これまでの成果をみると、研究自体の有用性も次第に確かになってきた。

この研究では、瀬戸内に面し、古くから開け、また、工業地帯としても栄えている山口県の中央部の小野田市、山陽町、と鉱業が栄えた山間の都市、美祿市にあった、合計100の神社林でドングリの種を調べた。

調査の方法

この研究では、小野田市の27神社、山陽町の22神社、美祿市の51神社の、合計100の神社で調査を行った。図1にはこれら100の神社の位置を、また、表3には各々の神社名と所在地を示してある。調査は社殿など建造物がある境内を中心に、それを囲む林とそれに隣接する林も含めて、できるだけ広い範囲で行った。各調査地点ではドングリを含む樹木の種類と位置を記録し、さらに、大きな樹木については胸高直径と樹高を測定した。ドングリの分類は阿部（1985）、原・阿部（1985）、岩田（1965）、北村・村田（1979）、および、矢頭・岩田（1966）に従い、いくつかの神社では社寺林調査研究委員会（1985）、山口県野外植物研究委員会（1993）の資料を参考にした。調査は平成11年5月から平成13年1月に実施した。

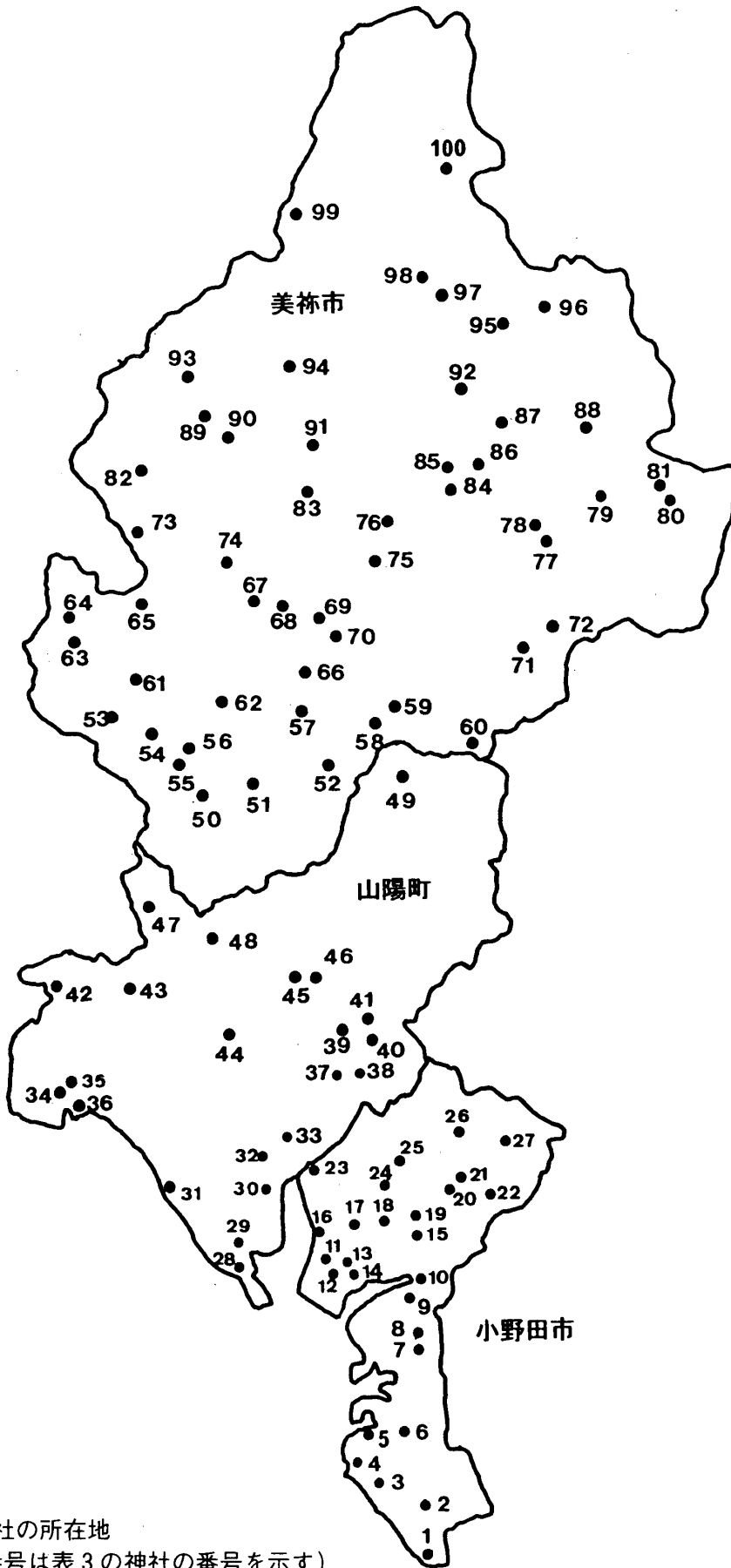


図1 神社の所在地
(番号は表3の神社の番号を示す)

結 果

神社と神社林の景観

小野田市は工業地帯で、人も家も多く、また、干拓地が広く、森林が少ない地域である。実際、小野田市の27神社のうち14の神社は大きな道路に面しているなど、ほとんどが町中にあった。図の石鎚神社（図2A）や赤碓神社などはその典型で、神社林と呼べる林は無かった。境内は清掃も行き届き、社殿もよく管理されていた。小野田市にはこのような神社が多かった。数少ない例外は、北部山間にある別府八幡宮で、ツブラジイ・シイモチ群落の大きな照葉樹林が見られた（図2B）。別府八幡宮は社殿も大きな立派な神社で、それらを囲むように高さ約15mのツブラジイ林があった。このシイ林は、最大で胸高直径が104cmあるクス、胸高直径が100cmのタブノキやシイモチなどが混じって高木層を成し、その下にはクロキ、ヤブツバキ、モチノキなどが繁った、大変美しい照葉樹林となっていた。また、別府八幡宮に近い烏帽子岩神社の境内には胸高直径97cmのツブラジイ（小野田市の神社中、最も大きなドングリであった。図2C）があった。現在この神社は周りをヒノキ林に囲まれているが、おそらく、この付近（北部）はかつてはシイなどが繁る照葉樹林だったかもしれない。その他、河内神社では胸高直径60cm以上の個体を含む多数のクスが見られた。このように、まとまってもクスが生えている神社林は大変珍しい。

山陽町には照葉樹林をよく保っている神社林が3つあった。一番目立ったのは、吉部田八幡宮で、境内自体は広くないが、極相に達したスダジイ群落の樹林が神社を覆っていた（図2D）。大径木のスダジイは無いが、スダジイに混じって、ヒメユズリハ、ツブラジイ、ヤマモモなどの照葉樹が密集して繁茂していた。この林は保護すべき照葉樹林として山口県の自然記念物に指定されている。そして、山野井八幡宮にもスダジイ群落が社殿を囲むように生えた美しい典型的な神社林が残されていた。スダジイの中には、胸高直径が110cmもある木があった。さらに、福田八幡宮の神社林も、アカガシ、シラカシ、ツブラシイを主体とする照葉樹林となっていた。カシが多い神社林は大変珍しく、また、アカガシ自体も希な種で、極めてユニークな林と思われる（図2E）。この他にも、惣社八幡宮などで小さなツブラジイ林が見られたが、全体的には小野田市同様、人工的な神社が多かった。鴨神社はその人工的な神社の一つであるが、スギ（胸高直径112cm）、ツブラジイ（72cm）、アラカシ（65cm）をはじめとして、境内にある木はどれも太く、また、樹高も20mを越える木が多く、大変印象的な景観であった（図2F）。

美祢市本郷の神宮皇后神社では、今回調べた100の神社中、最も素晴らしい神社林が見られた。社殿の後方には植林が迫って林の奥行きはないが、胸高直径が208cmと119cmのイチイガシの巨木が聳えていた。前者は山口県で2番目に大きなイチイガシで県の天然記念物に指定されている。本殿左手の樹林が見事で、胸高直径が1m前後のツブラジイ、アラカシ、タブノキ、クスなどの巨木が林立していた（図2G）。樹冠は高く、薄暗い林床にはわずかに少径木があるだけで、極相に達した照葉樹林と思われる。林の中には胸高直径が120cmのアラカシがあったが、これは今まで見た中で最も大きなアラカシである。美祢市には神宮皇后神社以外にも、興味深い神社林

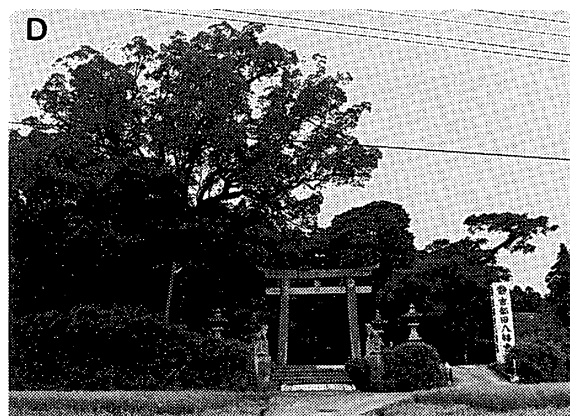
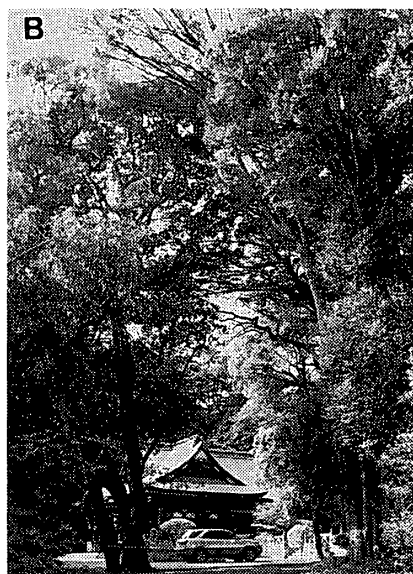
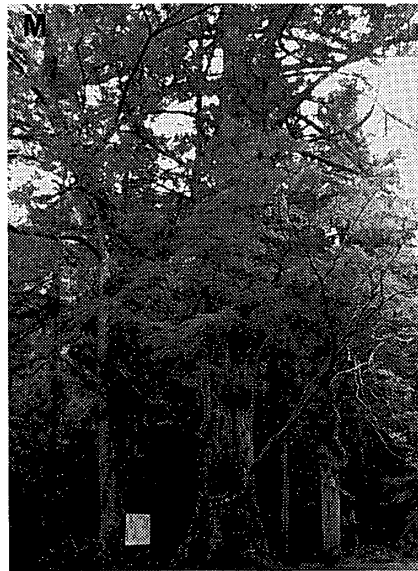
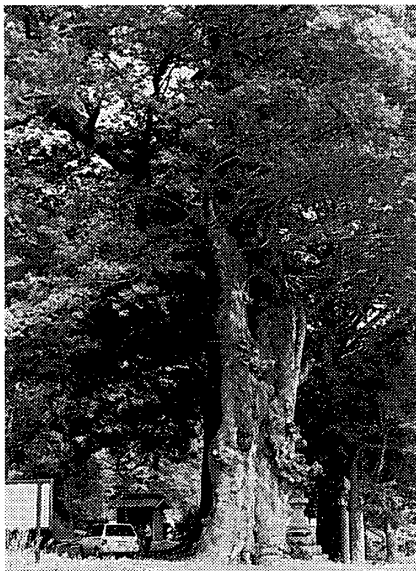


図2 神社と神社林

- A. 石鎚神社 B. 別府八幡宮 C. 烏帽子岩神社 D. 吉部田八幡宮
E. 福田八幡宮 F. 鴨神社 G. 神宮皇后神社



H. 豊浦山神社
K. 天神様

I. 麻生八幡宮
L. 原八幡宮のムクノキ

J. 巖神社
M. 熊野神社のスギ

がいくつもあった。まず、典型的な照葉樹林は豊浦山神社でも見られた(図2 H)。この神社林はツブラジイ-ヤブツバキ群落で、高木層はツブラジイを主体としているが、タブノキやクロキも混じって、こんもりとしたよい森となっていた。また、麻生八幡宮(図2 I)、若宮神社、巖神社(図2 J)も照葉樹林の景観をよく示す神社林となっていた。これら3つの神社では、いづれも5種以上のドングリがあった。また、小さいけれども天神様にもシイの林が残されていた(図2 K)。この他、シラカシ、ツクバネガシ、タブノキ、クロガネモチ、カゴノキの高木が多い、下領八幡宮の照葉樹林や、ウラジロガシの小さな林がある西八幡宮も印象的であった。

ドングリの種類

100の神社で4属15種のドングリを観察した。コナラ属で常緑の種は、アカガシ(*Quercus acuta*)、アラカシ(*Q. glauca*)、イチイガシ(*Q. gilva*)、ウラジロガシ(*Q. salicina*)、シラカシ(*Q. myrsinaefolia*)、ツクバネガシ(*Q. sessilifolia*)の6種、落葉性の種はアベマキ(*Q. var iabilis*)、クヌギ(*Q. acutissima*)、コナラ(*Q. serrata*)、ナラガシワ(*Q. aliena*)の4種の、合計10種類を観察した。そして、マテバシイ属はマテバシイ(*Lithocarpus edulis*)とシリブカガシ(*L. glabr*)の2種があった。また、シイ属はツブラジイ(*Castanopsis cuspidata*)、スタジイ(*C. cuspidata sieboldii*)の2種類を、さらに、栽培種のクリ(*Castanea crenata*)も19の神社で観察した。

これら15種の中で一番多かったのはアラカシで、59%の神社にあった。以下は、ツブラジイ(35%)、コナラ(31%)、クリ(19%)、シラカシ(18%)の順であった。これ以外の11種は、いづれも出現頻度が10%以下となっていた。しかし、7つの神社にあったシリブカガシは、全て美祿市に集中しており、美祿市に限ると14%の出現頻度となる。また、それらは、岡崎の麻生八幡宮から金山の金山宮までの南北に連なって分布していた。これまでシリブカガシが高い頻度であったのは岩国市と柳井市付近だけで、注目に値する結果である。また、美祿市のアカガシはわずかに3ヶ所にしかないが、北部の麻生八幡宮から若宮神社まで、東西に連なって分布していた。また、美祿市東部には南北にツクバネガシが拡がって分布しており、美祿市は他では希なドングリが多い地域である。

ドングリが全く無い神社は小野田市で6、山陽町で5、美祿市で7の合計18所あった。これに対して、ドングリの種類が最も多かったのは美祿市の若宮神社で6種が見られた。また、福田八幡宮、巖神社など4つの神社では5種類を観察した。平均すると1神社あたりのドングリの種類数は2.0となった。そして、ドングリがある神社の87%では、アラカシまたはシイが見られ、この2種は神社林の最も普通の種である事が、この地域でも確認された。これらの結果は表2と表3に示してある。

この地域にはカシやシイが多い神社林がよく見られた。小野田市の別府八幡宮、山陽町の吉部田八幡宮、山野井八幡宮、美祿市の豊浦山神社は、シイが優占する照葉樹の神社林で、大きなシ

表1 神社にあった大きな樹木

樹木の種類	所在地と大きさ
イチイガシ	神宮皇后神社 (209cm・20m、119cm・25m)
アラカシ	神宮皇后神社 (120cm・20m)
シラカシ	下領八幡宮 (93cm・15m)
スダシイ	山野井八幡宮 (110cm・9m)
ツブラジイ	定石神社 (120cm・13m)、巖神社 (114cm・11m、105cm・12m) 神宮皇后神社 (105cm・20m)、烏帽子岩神社 (97cm・9m)
ムクノキ	原八幡宮 (169cm・27m)
タブノキ	下のお宮 (110cm・9m)、別府八幡宮 (100cm・9m)
クス	神宮皇后神社 (127cm・20m)、菅原神社 (115cm・17m) 吉部田八幡宮 (112cm・15m)
スギ	原八幡宮 (158cm・19m)、熊野神社 (162cm・38m) 廣旗神社 (127cm・29m)、鴨神社 (122cm・32m)
モミ	神宮皇后神社 (111cm・17m)

() の数字は胸高直径と樹高を示す

イ林が観察できた。この他、大濱神社、惣社八幡宮などにも小さなシイの林があった。福田八幡宮と麻生八幡宮はカシ類が多く、シイも混じった照葉樹林となっていた。カシ類だけの大きな神社林はなかったが、下領八幡宮にはシラカシが多く、西八幡宮には小さなウラジロガシ林があった。

この地域の神社には胸高直径が1mを越える木が多かった。表1に代表的な木を示してある。ドングリの中で一番大きかったのは、神宮皇后神社のイチイガシで、胸高直径は209cm、樹高は20mあり、この木は今回見た中で最も大きな樹木でもあった。この神社には胸高直径120cmのアラカシもあった。アラカシとしては希な大きさである。定石神社のツブラジイを初めとして大きなシイもよく見られた。また、下領八幡宮のシラカシはご神木となっていた。ドングリ以外の樹木で一番大きかったのは原八幡宮のムクノキで、胸高直径は168cm、樹高は27mあった(図2L)。この他、樹齢300年以上とされる熊野神社のスギ(図2M)をはじめ、タブノキ、クス、モミなどの大木も見られた。

地域ごとのドングリの種類

今回調査した神社を、小野田市、山陽町、美祢市に分け、ドングリの種類とそれぞれの出現数を表2に整理してある。各地域のドングリの種類数は、それぞれ7種、8種、12種で、美祢市が圧倒的に多かった。美祢市にだけあった種はシリブカガシ、ウラジログシ、マテバシイの3種で、なかでもシリブカガシの多さが目立っていた。多い種類を順にみると小野田市も山陽町も、アラカシ、コナラ、ツブラジイの順で全く一致していた。これに対して美祢市はアラカシ、ツブラジイ、シラカシの順でコナラは4位であった。どこにも多いアラカシとシイの出現数を比較すると、美祢市が高く、小野田市が一番低い。神社当たりのドングリの種類数は、1.3種、1.6種、2.5種となり、美祢市はドングリの種類も量も多いことが分かった。内陸性のシラカシは小野田市には分布せず、89%は海から離れた美祢市で観察した。2種のシイのうちスダジイは海に近いほど多いとされているが、スダジイ自体が僅かに山陽町の3神社にしか無かった。アベマキは岩国や大島など瀬戸内に面した県の東部に多いが、小野田市の2つ神社にあった。アベマキは宇部市にもわずかにあるので、県の東部を中心に瀬戸内に偏在するのかもしれない。

表2 地域ごとのドングリの種類と出現数

ドングリの種類	ドングリの種類と神社数			
	小野田市(27神社)	山陽町(22神社)	美祢市(51神社)	合計(100神社)
アベマキ	2(7)	0	0	2(2)
クヌギ	4(15)	0	4(8)	8(8)
コナラ	8(30)	8(36)	15(30)	31(31)
ナラガシワ	0	1(5)	0	1(1)
アカガシ	0	1(3)	3(6)	4(4)
アラカシ	11(41)	12(55)	36(72)	59(59)
イチイガシ	0	0	1(2)	1(1)
ウラジログシ	0	0	3(6)	3(3)
シラカシ	0	2(10)	16(32)	18(18)
ツクバネガシ	1(4)	0	5(10)	6(6)
シリブカガシ	0	0	7(14)	7(7)
マテバシイ	0	0	2(4)	2(2)
スタジイ	0	3(14)	0	3(3)
ツブラジイ	7(26)	5(23)	23(46)	35(35)
ク　　リ	3(11)	4(18)	12(24)	19(19)

数字は出現数、()内の数字は割合(%)

論　　議

小野田市、山陽町、美祢市にある100の神社を調べ4属合計15種のドングリを観察した。ドン

グリの種類数はこれまで調べた地域と比較すると決して少なくはない。しかし、出現頻度が50%以上あった種はアラカシだけ、また、30%を越えたのはツブラジイとコナラの2つだけであった。これは小野田市と山陽町にドングリが少なかったため、例えば、ともに20%を越える神社でドングリが無かった。これに対して、美祿市ではシリブカガシやアカガシなど希な種を含む、12種のドングリが分布し、神社当たりのドングリの種類数も2.5と小野田市の約2倍となっていた。隣接した地域であるが、大きな地域差が認められた。特に小野田市でドングリの少なさが目立ったが、同市は工業地帯で市街地が多い。従って、小さく、また、整備や管理が行き届いた神社が多く、残存する自然植生が少なかったためと思われる。さらに、元々神社林のような自然植生が無い干拓地に立地する神社も多いためかもしれない。我々が調査点を神社においた第一の理由は、神社は宗教上の理由から比較的自然が残されている場所（吉良、1967）という事にある。が、これが全ての神社にあてはまらないのは確かである。特にこの地域では人工的な神社が多く、純粋な意味では生物学的データでない。例えば、小野田市で自然植生が残されていると思われる神社林は別府八幡宮と河内神社くらいで、ほとんどは小さな、公園的な神社であった。一方、ドングリが多かった美祿市においても、広い神社林があるのは結果の項で列記した神社など数は限られている。むしろ、ほとんどは周りを植林や畑、住宅に囲まれ、社殿の周りに薄く森が残る神社が多い。そして、そのような神社で観察できるドングリの樹木の本数は決して多くはない。まさに、残存する樹木を調べている感がある。しかし、そのような小さな点を結ぶ方法でも、例えばシリブカガシ帯やアカガシやツクバネガシが広がる地域がある事が分かり、また、内陸にシラカシが多いのを明らかにできた。潜在的な植生を復元したと思われる。全域をメッシュに分け、全てを調べ尽くすのは難しい以上、我々の方法は実際的で有効な方法と思われる。

今回の研究では、シリブカガシが美祿市の西部で、南北に連なって広がって分布する事が明らかになった。出現頻度は14%もあり、しかも、広範囲に分布するので、人為的なものとは考えられない。シリブカガシが10%以上の割合で出現するのは和木町、岩国市、大和町など県の東部だけである。これまで、シリブカガシは県東部に特徴的な種と考えていたが、今回の研究で正しくない事が分かった。この種は、もともと全県に渡って分布していたが東部だけで残存している、あるいは、もともと偏在する種であるなど、さまざまな説明が可能である。

これまでの一連の研究に今回の100の神社を加えて、875の神社で調査を終えた。このシリブカガシの分布の解明も含め、西部を中心とした地域での調査が今後の課題である。

表2 神社とドングリの種類

番号	神社名	所在地	ドングリの種類
1	金比羅院	小野田市本山町	
2	正一位稲荷大明神	〃 松浜	
3	子持御前神社	〃 西沖	アラカシ
4	大濱神社	〃 田の尻	ツブラジイ
5	恵比須神社	〃 木戸	クヌギ
6	赤嵩大明神	〃 松角	アラカシ、クヌギ
7	住吉神社	〃 住吉町	アベマキ、クヌギ、コナラ
8	少童神社	〃 千代町	クリ
9	廣市稲荷神社	〃 栄町	アラカシ
10	松江八幡宮	〃 目出	アラカシ、コナラ、ツブラジイ
11	八坂神社	〃 高浜	アラカシ、クリ
12	須賀神社	〃 西高泊	コナラ
13	高泊神社	〃 西高泊	アラカシ、コナラ
14	當鳩八幡宮	〃 西高泊	アラカシ
15	石鎚神社	〃 新生町	アラカシ
16	黒崎神社	〃 黒葉山	クヌギ、コナラ
17	烏帽子岩神社	〃 烏帽子岩	ツブラジイ
18	巖島神社	〃 高須	
19	櫛山神社	〃 櫛山	
20	若宮神社	〃 角石	アラカシ、コナラ
21	巖島神社	〃 角石	アラカシ、ツクバネガシ、ツブラジイ
22	杵築神社	〃 杵築	
23	綿津見神社	〃 後潟上	クリ、ツブラジイ
24	平原神社	〃 平原	アベマキ、コナラ
25	巖嶋神社	〃 千崎西	
26	河内神社	〃 東高泊	ツブラジイ
27	別府八幡宮	〃 有帆椿	アラカシ、コナラ、ツブラジイ
28	金比羅神社	山陽町梶下	
29	巖島神社	〃 梶下	
30	疑島神社	〃 古開作	アラカシ
31	津布田八幡宮	〃 津布田	アラカシ、コナラ、ツブラジイ
32	吉部田八幡宮	〃 吉部田	アラカシ、コナラ、スダジイ、ツブラジイ
33	明神様	〃 鳥越	
34	正一位埴生稲荷	〃 埴生	コナラ
35	護国神社	〃 埴生	コナラ
36	糸根神社	〃 浜崎	
37	惣社八幡宮	〃 野中	ツブラジイ
38	秋葉社	〃 杣尾東	アラカシ、シラカシ
39	厚狭天満宮	〃 天満町	
40	護国神社	〃 杣尾西	アラカシ、クリ
41	鴨神社	〃 西善寺	アラカシ、クリ、ツブラジイ
42	大持天満宮	〃 大持	アラカシ、クリ
43	福田八幡宮	〃 福田	アカガシ、アラカシ、シラカシ、スダジイ、ツブラジイ
44	山野井八幡宮	〃 山川	アラカシ、コナラ、スダジイ
45	山川天満宮	〃 山川	アラカシ、コナラ、ナラガシワ
46	野田神社	〃 野田	コナラ
47	保戸神社	〃 保戸	アラカシ、クリ、コナラ
48	河内神社	〃 平原	ツブラジイ
49	加茂神社	〃 奥ノ沿	アラカシ
50	梅香天満宮	美祢市梅香	アラオシ、クリ、コナラ、ツクバネガシ

番号	神社名	所在地	ドングリの種類
51	神宮皇后神社	美祢市本郷町	アラカシ、イチイガシ、ツブラジイ、シリブカガシ
52	* 金山宮	〃 金山	アラカシ、クヌギ、コナラ
53	若宮神社	〃 平沼田	アラカシ、クリ、コナラ
54	秋葉神社	〃 駒ヶ坪	アラカシ、クリ
55	八幡宮御旅所	〃 原	
56	原八幡宮	〃 原	
57	* 岩河内宮	〃 岩河内	アラカシ、コナラ、ツブラジイ
58	大原八幡宮	〃 西ノ沿	アラカシ、シラカシ、ツブラジイ
59	大隅八幡宮	〃 中村	
60	天満宮	〃 根越	アラカシ、ツクバネガシ、ツブラジイ
61	須賀神社	〃 下長尾	
62	熊野神社	〃 熊ノ倉	ツブラジイ
63	* 古烏帽子宮	〃 古烏帽子	アラカシ、コナラ、シラカシ、ツブラジイ
64	河内大明神	〃 古烏帽子	アラカシ、クリ、シラカシ
65	黄幡神社	〃 保々	アラカシ、コナラ、シラカシ
66	熊野神社	〃 大向	アラカシ、クヌギ、シラカシ
67	天神様	〃 嘉木	アラカシ、クリ、シラカシ、ツブラジイ
68	若宮天満宮	〃 杉原	アラカシ、コナラ、シリブカガシ
69	下のお宮	〃 四郎ヶ原	アラカシ、ツブラジイ
70	* 七田宮	〃 七田	アラカシ、コナラ
71	西ノ宮八幡宮	〃 野池	アラカシ、ツブラジイ
72	菅原神社	〃 中峠	
73	河内神社	〃 今山	クリ
74	八幡宮	〃 草井川	アラカシ、シリブカガシ
75	秋葉様・妙見様	〃 祖父ヶ瀬	アラカシ、シラカシ、ツブラジイ
76	定石神社	〃 日永	アラカシ、ウラジロガシ、シラカシ、ツブラジイ
77	荒神様	〃 万蔵地	アラカシ、クリ
78	祇園神社	〃 北川	
79	廣旗神社	〃 広下	アラカシ、コナラ、ツブラジイ
80	二鏡社	〃 上野	アラカシ、コナラ、クリ、ツブラジイ
81	荒神社	〃 上層原	クリ
82	金比羅様	〃 上湯口	
83	巖神社	〃 平原	アラカシ、コナラ、シリブカガシ、ツブラジイ、マテバシイ
84	下領八幡宮	〃 下領	アラカシ、シラカシ、ツクバネガシ
85	上領八幡宮	〃 上領	アラカシ
86	秋葉神社	〃 曾根	アラカシ、コナラ、シラカシ
87	天神様	〃 奥山瀬	アラカシ、クリ
88	菅原神社	〃 河原町	アラカシ、ツクバネガシ、マテバシイ
89	豊浦山神社	〃 下三ツ杉	アラカシ、ウラジロガシ、シラカシ、シリブカガシ、ツブラジイ
90	三ツ杉八幡宮	〃 三ツ杉	アラカシ、シラカシ、ツブラジイ
91	柳田神社	〃 荒川	アラカシ、クヌギ、コナラ
92	稲荷大明神	〃 助行	アカガシ、クヌギ、コナラ、シラカシ
93	麻生八幡宮	〃 岡崎	アカガシ、アラカシ、シラカシ、シリブカガシ、ツブラジイ
94	菅原神社	〃 麦川	クリ、シラカシ、ツブラジイ
95	河内神社	〃 河内	アラカシ、シリブカガシ、ツブラジイ
96	若宮神社	〃 人見	アカガシ、アラカシ、クリ、コナラ、ツクバネガシ、ツブラジイ
97	西八幡宮	〃 宮前	アラカシ、ウラジロガシ、シラカシ、ツブラジイ
98	日大神社	〃 砂地	クリ
99	巖島神社	〃 上田代	ツブラジイ
100	東八幡宮	〃 竜現池	アラカシ、ツブラジイ

*は正式の神社名が不明で仮称

謝 辞

この研究に当たり現地での調査や資料に集めに協力して下さった原田憲幸氏に深く感謝致します。

引用文献

- 阿部弘和 (1985) : ドングリの分類と観察、遺伝39巻9号、66-71
- 阿部弘和・森田和則 (1989) : 山口県のドングリ (2) 阿武郡、萩市の神社林のドングリ
山口大学教育学部論叢、39巻 (第2部)、13-27
- 阿部弘和・郡司浩史 (1991) : 山口県のドングリ (3) 防府市、徳地町、鹿野町の神社林のドングリ
山口大学教育学部論叢、41巻 (第2部)、23-36
- 阿部弘和・白井直希 (1994) : 山口県のドングリ (4) 宇部市、楠町、長門市の神社林のドングリ
山口大学教育学部論叢、44巻 (第2部)、1-12
- 阿部弘和・白井直希 (1995) : 山口県のドングリ (5) 秋芳町、三隅町、長門市の神社林のドングリ
山口大学教育学部論叢、45巻 (第2部)、19-30
- 阿部弘和・岡原恵子 (1997) : 山口県のドングリ (7) 大島郡の神社林のドングリ
山口大学教育学部論叢、47巻 (第2部)、13-25
- 阿部弘和・岡原恵子 (1998) : 山口県のドングリ (8) 熊毛郡、柳井市、大畠町の神社林のドングリ
山口大学教育学部論叢、48巻 (第2部)、11-24
- 阿部弘和・原田憲幸 (1999) : 山口県のドングリ (9) 下松市、熊毛町、光市の神社林のドングリ
山口大学教育学部論叢、49巻 (第2部)、1-11
- 阿部弘和・原田憲幸 (2000) : 山口県のドングリ (10) 徳山市、新南陽市の神社林のドングリ
山口大学教育学部論叢、50巻 (第2部)、21-30
- 岩田利治 (1965) : 図説樹木学-広葉常緑樹編-、朝倉書店 (東京)
- 岡国夫ほか (1972) : 山口県植物誌、山口県植物誌刊行会 (山口)
- 吉良竜夫 (1976) : 自然保護の思想、人文書院 (東京)
- 北村四郎・村田源 (1979) : 原色日本植物図鑑木本編、保育社 (東京)
- 社寺林調査研究委員会 (1985) : 山口県の社寺林、社寺林調査研究委員会 (山口)
- 花岡隆義・阿部弘和 (1986) : 山口県のドングリ (1) 山口市の神社林のドングリ
山口大学教育学部論叢、36巻 (第2部)、27-36
- 原靖治・阿部弘和 (1985) : 野外学習の進め方: ドングリの分類と観察
山口大学教育学部論叢、35巻 (第3部)、59-80
- 西村淳・阿部弘和 (1996) : 山口県のドングリ (6) 由宇町、岩国市、和木町のドングリ
山口大学教育学部論叢、46巻 (第2部)、19-28

矢頭献一・岩田利治（1966）：図説 樹木学－落葉広葉樹編－、朝倉書店（東京）

山口県野外植物研委員会（1993）：山口県の社寺林、山口県野外植物研究委員会（山口）